



中国税理士会廿日市支部

平成31年1月20日 (第137号)

発行人 支部長 星野 泰輝

編集責任者 広報部長 田尾 幸二



宮島 廿日市市 物見山公園展望台から撮影

- 支部長 星野 泰輝
- 副支部長 青木 春好
- 林谷 悟
- 杉山 謙一郎
- 総務部長 宮地 文夫
- 指導研修部長 細川 和裕
- 税務支援対策部長 浅井 克己
- 調査研究部長 河本 雅志
- 網紀監察部長 黒田 実
- 情報化対策部長 福井 政夫
- 厚生部長 江口 竜哉
- 広報部長 田尾 幸二
- 業務会計監事 藤本 邦彦

年男の 新年のごあいさつ



廿日市支部長
星野 泰輝

平成31年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

支部会員の皆様には、平素より支部運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も引き続き、役員の皆様及び会員の皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

私は、今年還暦を迎えることとなります。幼少期には、60歳といえば年寄とか爺さんのイメージでしたが、いざ自分がその年になると、まだまだ若く気力も体力も充実していると思っています。

毎年11月に、私の地元では市民運動会が開催され、毎回参加していますが、昨年は、参加者が少なく「星野さんは若いから」とおだてられ、8種目に出場しました。競技は、小中学生・中年・高齢者が一緒に出場するため、ほとんど団体競技であり簡単で無理のないものです。一緒に走る小学生は、この爺さんには勝てると思っていたのでしょうか。実際、スタートの第1歩が遅く、走っても大きなおなかと体重のため、歩いているのと同じ状態です。これが現実です。

最近よく年老いた母のことを思います。若いときは、気丈で賢い母でしたが、徐々に衰えています。さだまさしの「無縁坂」の歌詞と重なります。いずれ、私も同じ道を歩くのでしょうか。しかし、人として税理士として、地域の皆様・顧問先・税理士業界、そして廿日市支部に少しでもお力になれますよう、もうひと踏ん張り頑張りたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

さて、昨年6月6日の支部定期総会において、「広島地区支部連絡協議会（以下、「地区連」という）へ

の加入」「支部会費の改正（2021年4月1日から適用）」「指導研修部と調査研究部の統合、情報化対策部の廃部」が承認されました。

地区連への加入に向けての準備として、私、林谷悟副支部長、宮地文夫総務部長の3名が、地区連の会議へ3回出席させていただきました。廿日市支部が準備すべきこととして、①口座の開設 ②会員のメールアドレスの収集 ③過去の書類の提出等があります。これらについては、粛々と進めてまいります。地区連の来年度の事業計画・予算については、廿日市支部としては不明点が多いこと及び地区連の各委員会への出席者の選出が困難なことから、現状の地区連の委員会にお任せすることとしました。会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

去る11月16日に開催されました支部役員会で、「支部選挙管理委員会」の委員が承認されました。私の支部長としての任期も、本年6月の支部定期総会までと残り少なくなってきました。新たに選出される支部長に業務の引継ぎを行い、今後も新支部長をはじめとする新執行部に微力ながらご協力させていただきます。支部会員の皆様には、積極的に支部活動にご参加いただき、支部を活性化させるためにご協力をお願いいたします。

最後に、私の支部長としての任期中における、支部役員・支部会員の皆様のご指導・ご支援とご協力に対し、心からお礼申し上げますとともに、廿日市支部の益々の発展と、会員皆様のご健勝と業務のご繁栄そして今年が最良の一年となりますよう祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ



甘日市税務署長
榊原 康之

平成31年の年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

中国税理士会甘日市支部会員の皆様方には、平素から税務行政全般にわたり深いご理解と多大なご協力を賜っており、厚くお礼を申し上げます。

さて、税務行政を取り巻く環境は、経済活動の国際化、ICT化の急速な進展等により大きく変化してきております。

一方で、厳しい財政事情の下で、行政の一層の効率化が求められています。

税務行政を取り巻く環境が大きく変化する中、今後とも、納税者の皆様の理解と信頼を得て、国税庁の使命であります「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」ために、甘日市税務署におきましても、納税者の適正申告に役立つ情報提供やICTを活用した利便性の高い納税環境の整備など納税者サービスの充実に努めるとともに、適正な申告を行った納税者の皆様が不公平感を抱かないよう、適正・公平な課税・徴収に努めてまいります。

いよいよ本年10月には、消費税率の引き上げが実施されます。それと同時に実施される軽減税率制度は、取扱商品の適用税率の確認や区分経理など、多くの事業者の方に関係があるものです。

制度実施が近づく中、甘日市税務署では、事業者

の方の制度理解のための説明会を引き続き実施してまいります。

e-Taxにつきましても、平成30年6月に公表された「財務省デジタル・ガバメント中長期計画」において目標値が設定されました3つの申告手続のオンライン利用率達成に向けて普及拡大に努めてまいります。

まもなく平成30年分の所得税、個人事業者の消費税及び贈与税の確定申告の時期を迎えます。

税理士会の皆様には、署申告会場での申告相談、確定申告テレフォンセンターへの従事、更には青色申告会等に対する派遣事業など、多くのご支援をいただいておりますが、本年も変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

申告納税制度の適正かつ円滑な運営に重大な役割を担っていただいている税理士の皆様方と十分に意思の疎通を図りながら、従来にも増して信頼と協調関係を深めてまいりたいと思っておりますので、なお一層のご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後になりましたが、中国税理士会甘日市支部の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご繁栄を祈念いたしまして、私の新年のごあいさつとさせていただきます。

新春特集 年男・年女のひとこと



昭和10年生まれ

重村 誠
昭和10年6月9日生

親孝行とは・・・！！

昔、近江の国に人に知られた親孝行の息子が住んでおりました。

この孝行息子はもっと立派な親孝行者になろうと思っていたところ、その頃、信濃の国にそれは立派な親孝行息子がいるという話を耳にしました。

それでは一度信濃へ行ってその孝行息子を見習ってこようと親の許しを得て遠く信濃の国まで足を運びました。信濃の国へ着いてみると、その孝行息子は山へ薪を取りに行き留守でした。ただ、母親が一人囲炉裏端に座って息子の帰りを待っていました。やがて薪を山と背負った息子が帰ってきました。これを見ると母親は息子の所へ急いで行って薪を下すのを手伝い終いには息子の足まで洗ってやりました。

これを見ていた近江の孝行息子は信濃の息子は立派な親孝行者と聴いて見に来たのだが、母親に足まで洗ってもらっている。これがどうして親孝行であるのかと不思議に思いました。そして近江の孝行息子は親孝行とは一体何であるのかが分からなくなったため、その信濃の息子に尋ねました。すると

信濃の息子はこう答えたといひます。

私は親孝行とはどんなことかははっきりいってよく分かりません。また、私は親孝行をしているとも思っていない。ただ、母は薪を下すのを手伝ったり、いろいろ私のためにできる仕事をすることを楽しみにしております。ですから私はこれを断ることをせずに母の言いなりになって足を洗ってもらったり肩を揉んでもらったりしているのです。要は親孝行とは親に逆らうことなく親の思いやりを素直に受け入れ親に心配をかけないということではないでしょうか。

親孝行の基本は昔も今も変わりません。

先ずは、安定した職に就き、適齢期には結婚して両親の宝物である子供（孫）をつくり、健康で幸せな家庭を築くこと。親を大切にして良く仕え、迷惑や心配をかけることなく感謝の気持を忘れずに日々を送ることが何よりの親孝行と言えましょう。

❀ 新春特集 年男・年女のひとこと ❀



昭和10年生まれ

澤江 敬子
昭和10年11月18日生

『猪突猛進を返上します』

イノシシ年生まれだから猪突猛進だ。

猪突猛進だと言われ、おとなしさが私の体の隅っこに追いやられ・・・。

実際の自分を自分自身で確認できないまま、私って猪突猛進型の人間なのかな・・・って、思い込んでいました。

実際、人の話も聞かずに猪突猛進に行動しすぎた事もありました。

しかし!2019年は猪突猛進を返上します。

先日、「言葉は力」という本を読みました。

その本の巻頭に

「言葉は力です。たましいを持った言葉は一人歩きをし、現実を形づくります。

言葉はまた、魂の食物です。

人間の魂は、言葉という食物を食することによってのみ、成長していきます。

言葉はエネルギーです。」

という文章が載っており、本の内容とともにその文章にもとても感銘いたしました。

新しいイノシシ年は人の話をよく聞き、その方々の言葉を自らのエネルギーとし、猪突猛進になりそうな時はその言葉のエネルギーで自らの心にブレーキをかけ、何事も冷静に行動しようと思っています。

こんな私ではございますが、これからも今まで通りご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

新春特集 年男・年女のひとこと



昭和22年生まれ

稲田 稔

昭和22年12月28日生

亥年雑感

「猪突猛進」気が付けば人生、第4コーナーを回り、ゴールも近くなってきたようです。

日本国憲法が施行された昭和22年、山陰の片田舎の農家の家に五男として生まれました。戦後の第一次ベビーブーム時、この世に生を受けたいわゆる「団塊の世代」です。高度成長、バブル期、そして平成不況と一喜一憂した世代です。

3億円事件、大学紛争のあった昭和43年、高度成長期（いざなぎ景気）の中、両親の薦めもあり、税務の仕事に足を踏み入れました。税務の職種を選択した理由は初任給が高かったからと、単純なことでした。税務との関わりは幸か不幸か、今も続いているのです。いや、生活の中心にあり、家族を支えているので、先の選択は良と言えるでしょう。“No gains without pains”をモットーに40年の間、広島県、山口県、鳥取県で12の局署に勤務しました。

郵政民営化がスタートした亥年の平成19年、単身赴任からの解放、そして時間に束縛されず自由になりたいとの思いで、サラリーマン生活に終わりを告げ開業しました。

10年が経過し、いつまでも「おじさん」でいたいと

思うものの、テレビは健康番組に目が向き、ハズキルーペのコマーシャルに気が惹かれる一方、会話の中ではやたらと「アレ、ソレ」と言っている。“寄る年波には勝てぬ”と言ったところでしょうか。少しでも抵抗したいと思えども、高齢者の施設利用料が減免されたり、高齢者手帳や国民健康保険高齢者受給証が交付されたりで、嫌でも老人の仲間入りです。ゴルフ場では、無理をしないでとシルバーティーが待っています。

著者河合雅司『未来の年表』（講談社、2017年）によれば、団塊世代が全員75歳以上になる頃は3人に一人が65歳以上の超・高齢者大国となると言う。そして、80歳になる頃には高齢者の5人に一人が認知症になると予想し、「老老介護」ならぬ介護する側もされる側も認知症という「認認介護」といった事態が起り得ないとしています。

今は、ボケ防止にとゴルフや卓球で足腰を動かしたり、囲碁やパソコンで脳を使い(?)指を動かしたり、健康寿命が少しでも延びるように、ささやかな抵抗をしているこの頃です。



支部旅行同好会 観光記

同好会バス旅行 ～塩江温泉と日本最大級の蠟人形館～

旅行部世話人 江口 竜哉

今年度から旅行部の世話人となり初めての旅行。支部のイベントとして行われていた旅行が同好会となり、近年は海外へと行っていました。今年度は私が世話人として企画する旅行が初めてということもあり、支部旅行時代にずっとお世話になっていたニシキトラベルの妻崎様をお願いして、懐かしいバス旅行を11月4日から11月5日にかけて開催し、9名で香川の塩江温泉へ行ってきました。

朝8時30分に五日市駅からバスで出発し、一路四国へ。ほとんど宴会場みたいなバス

で4時間かけて香川へ到着し、香川名物うどんを食べ高松平家物語歴史館へ。この歴史館は日本最大級の蠟人形館で、その蠟人形の精巧さにはビックリ(!)。夜に訪れたら恐ろしいと話をしつつ1時間ほど観光し、ホテルにチェックインして宴会と温泉を楽しみました。宴会後にはラウンジへ移動しカラオケと温泉といえば卓球大会(?)で盛り上がり1日目は終了。

2日目の朝に起床した際になぜか腕が筋肉痛に。前日の卓球のせいかなと思いつつ、バスで岡山へ移動。昨日とうって変わっておとなしいバスで移動後、古民家風な茶屋で昼食をとり、牛窓神社と朝鮮通信使の文化交流資料館である牛窓回遊文化館へ。この資料館は古い警察署の建物をそのまま使用しているもので、大変趣のある建物でした。その後、ほんの少しだけ牛窓の街並みを散歩しつつバスへ移動し、五日市への帰路となりました。

世話人となって初めての旅行で不慣れなところもあり、参加された先生方が満足されたかは正直不安なところがありますが、事故等なく無事に終わってホッとしています。



高松平家物語歴史館の蠟人形

最後に、来年度以降の旅行(私がこのまま世話人の場合)については、海外にするか国内にするかはまだ決めてはませんが、この記事を読まれて旅行に興味がある先生におかれましては、是非とも旅行部に参加して頂き、次年度の旅行へ一緒に行きましょう!!

支部臨時総会

日 時：平成30年12月5日（水）午後3時45分～午後4時20分

場 所：広島サンプラザ

会員の出席状況：出席68名 / 会員総数112名

議 長：佐々木 茂会員

議事録署名人：升田 富士行会員 三輪 純裕会員

議 題

第1号議案 平成30年度上半期の各部の活動状況及び予算の執行状況についての報告

[研修会] 当日開催された研修会は、次のとおりです。

テーマ 「消費税の軽減税率制度」

講師 廿日市税務署 個人課税第一部門 上席調査官 兼重 康則様

同上 法人課税第一部門 上席調査官 間野 晴好様

テーマ 「特別徴収の一括実施について」

講師 広島県 西部県税事務所 廿日市分室 分室長 斉藤 浜夫様

廿日市市 総務部課税課 市民税係 係 長 向井 俊二様

大竹市 市民生活部市民税務課市民税係 係 長 浅田 幸政様

ありがとうございました。

四コマ漫画



編集後記

皆様のおかげで、8年間、支部の広報誌を定期的に発行することが出来ました。

その間、多くの方々から記事を戴き、ありがとうございました。

寒さに負けず、体調に気をつけて、確定申告期を乗り切りましょう。

田尾 幸二